

## 第 23 回 ウルトラ FM 番組審議会

### 1 開催年月日

令和 6 年 6 月 26 日（水） 10：00～11：00

### 2 開催場所

須賀川市民交流センターtette ルーム 3-1

### 3 委員の出席

委員総数 6 人

出席委員数 3 人

#### (1) 出席委員の氏名

堀江祐介（委員長）

安藤清美（副委員長）

横山知佳

#### (2) 欠席委員の氏名

村上空織

真壁正人

久保木彩歌

#### (3) 放送事業者側出席者

柳沼宏延（放送局長）

佐久間幸恵（営業・制作）

### 4 あいさつ

（堀江委員長）

7 月に入り、須賀川市内でも本格的な夏まつりがスタートする。まちでは、ウルトラマンやロジマなどのイベントが開催され、まちなかに人が集まる様々な事業が取り組まれているので、商店街でもイベントに賛同して一緒に盛り上げていければと思う。

### 5 議題

(1) ウルトラな若者応援番組「アオハル」（5月16日放送分）について

(2) その他

## 6 議事の概要

(1) ウルトラな若者応援番組「アオハル」(5月16日放送分)について事務局からの概要説明の後、意見聴取を行った。

(安藤副委員長)

番組の挿入部分がとても聴きやすく、入りやすかった。制作を担当した佐久間さんの進行から入り、鼓笛パレードの練習風景を伝える内容でしたが、その他のスタッフがインタビューを行っていたので質問内容を比較してしまう。番組を聞き、練習内容のイメージを持つことが出来たが、現場の状況が伝わるようなコメントがあったら良かった。できれば、鼓笛の演奏が途中で終わるより、最後まで聞かせた方が聴いている側としては良かったと思う。

(横山委員)

番組を聞いて感じたことは、児童への質問で「何でやりたかったのか?」とあったが、アンケートのように聞こえ、番組を聞いている人に練習様子が伝わらない。その他は、聞いてみて良い内容だったと思う。

(堀江委員長)

番組内容はとても良かった。鼓笛パレードの参加校で児童数が多い学校が参加していないことに対して、ラジオを聴いている人たちが、「なぜだろう」と思う機運に繋がればと思う。須賀川市の鼓笛パレードが始まったころの参加校は7校から始まり、その当時はバスや飲み物の協賛に苦慮した。当時、東山小学校の児童が全員で27人くらいだったが、全員が参加しての演奏は、当時見た市民はとてもインパクトがあったと思う。新型コロナウイルス感染拡大の終息後、鼓笛パレードに参加する学校が少なくなったが、子供たちがやりがいを持てるような雰囲気を作ってほしい。番組を通じて、子供たちの元気な声が聴けたことはとても良かった。

(佐久間)

頑張っている子供たちをラジオ番組内で取り上げることで、聞いている人たちに元気になってほしいと言う思いで制作した。特に大人たちに子供たちの元気な姿を知ってほしい。

(安藤副委員長)

子供は限られた言葉しか話すことが出来ないのも、子供にインタビューする際は、大人である先生に言葉の補足してもらおうと、より具体的な話ができるなど、膨らみのある番組なるのでは。インタビューするスタッフ側の解説力が高ければ、もっとインタビューの内容が聴く側に伝わったと思う。

(横山委員)

鼓笛パレードの練習に対して先生からのコメントがあれば、より子どもたちの頑張っていることが伝わったのでは。

(2) その他

(堀江委員長)

須賀川第一小学校には、シンガーソングライターの大黒摩季さんが東日本大震災後に応援ソングとして作詞した「希望のうた～カワセミのように～」がある。しかし、近年学校でも、市内でも聴く機会が少ないので、ラジオでその曲を流してほしい。

(柳沼局長)

学校や教育委員会に確認して、ラジオで放送できるよう努めます。

7 報告

事務局の柳沼局長から、7月の番組改編について説明が行われた。

8 審議会の答申又は意見に対してとった措置の内容及び年月日

・特になし

9 審議会の意見の概要の公表

公表方法：自社ホームページへの掲載

公表内容：本議事録

公表年月日：令和6年7月7日

10 その他の事項

次回の放送番組審議会日程について

・令和6年9月を予定。開催日は会長と相談の上決定し、委員に連絡する。